

I 実践

研究主題

差別や偏見をもたずに，互いに助け合い，思いやりの心を育てる人権教育のあり方

－ 教職員自らの人権意識を高めながら －

1 主題設定の理由

本校では，年々特別な支援を必要とする児童が増加しており，これらの児童が通常の学級でも居心地よくスムーズに活動ができるような配慮が必要である。そこで，より思いやりの心をもった児童の育成を図りたいと考え，昨年に引き続き「教育活動全体を通して差別や偏見をもたない児童を育成し，一人一人がかけがえのない人間として尊重されるように努める」を人権教育の経営目標としている。

国語科や外国語活動においてコミュニケーション能力の育成を，総合的な学習の時間においては豊かな体験活動を，道徳教育では，心の教育を重視し内面に根ざした道徳性の育成を図り，思いやりのある豊かな心を育てることに努めている。しかし，まだまだ継続指導が必要であると考えて今年も昨年と同様の本主題を設定した。

2 研究内容

- ・ 教職員研修の充実 道徳の公開授業
- ・ 豊かな体験活動の展開
- ・ 道徳教育の充実

3 実践内容

(1) 教職員研修の充実

ア 男女共同参画に関する研修会……人権主任参加（茨城県教育研修センター）

イ 人権校内研修

日 時 8月10日（火） 14時～15時

場 所 研究室

内 容

- ・ 男女共同参画に関する研修会・市教育研究会の研修内容伝達
- ・ ビデオ視聴「えっ！ これも人権？」 －4コマ劇場より－
協議

- ・ ビデオ視聴の感想

ふだんの生活の中のなにげない言動の中に「これも人権問題」と気づかされたことが多く，自分たちの言動にも注意したいと思った。

- ・ 教師が気をつけたいこと

－さまざまな人権課題があることをふまえて

関心と理解を深め，気づきから行動へ

知識とモラルの向上に務め，偏見や差別をなくす

ウ 通常学級担任と特別支援学級担任との連携（児

童の人権に配慮しながら)

- ・特別支援学級へ通常学級在籍児の受け入れ
登校しぶりなど必要に応じて学習・給食・清掃等長期にわたって支援
- ・通常学級へ特別支援学級在籍児の受け入れ
通常学級で参加できる行事・教科学習・給食・清掃など
- ・常日頃からの情報交換と共通理解
全職員での温かい見守りと指導や支援

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 異学年との交流活動

- 1年生を迎える会 (全学年)
- ハロウィンパーティ (1・2年, 3・4年, 5・6年)
- きらめきタイム (ロングの休み時間に縦割り集団遊び)

イ 高齢者との交流活動

- ふれあい給食 (4年)
- 昔遊び (1年)
- 大久保学区敬老会 (2年生参加)

ウ 外国人や地域の人との交流

- ハロウィンパーティ (ALT参加)
- よかつまつり (4年生参加)

エ 福祉的な体験活動

- 手話・車いす・ブラインド体験 (4年)

(3) 道德教育の充実

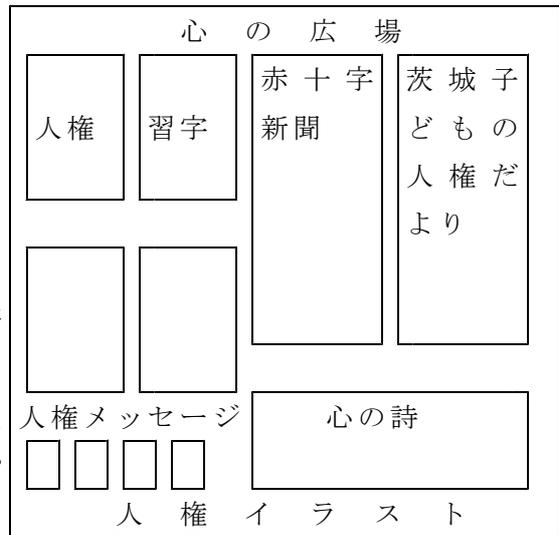
- ア 人権メッセージ・人権書道応募
- イ 全学級による道德の授業公開

4 成果

- ・校内研修会で県や市の教育委員会主催の研修内容を伝達したり, 協議したりした結果, 職員の人権意識がより高まり, 児童にも反映し, 今まで以上にいろいろな場で思いやりの行動が見られるようになった。

- ・縦割り活動等をもみても, 昨年は教師のお膳立てを必要としていたが, 今年度は上級生が進んで下級生の面倒を見るようになり, 児童同士の声かけも増えて教師をあまり頼らなくても活動ができるようになってきた。

人 権 コ ー ナ ー



II 今後の課題

児童一人一人の人権感覚を高めるためには, 教師一人一人の人権感覚が高く, 児童一人一人が大切にされた学級経営がなされていなければ, 豊かな体験活動や, 道德教育は徒労に終わってしまいかねない。今更であるが, 今後も教師自身が研鑽を積み「気づき」「学び」「行動」へより推進・邁進することであると思う。